

＜学校教育目標＞自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

め の と

10月 神無月
秋の行事 号

長崎市立女の都小学校 学校だより

令和3年10月4日 文責 校長：松田伊知郎

＜めざす児童像＞

① あてを立ててすすんで学ぶ子

② そみをもってたくましく生きる子

③ もだちとみがきあう思いやりのある子

一昨年度末の一斉休校に始まった感染症拡大防止のために自粛を重ねる生活が、既に1年半。疲れや閉塞感も漂いますが、その中で敢えて「『にこわく（にこにこわくわく）女の都モデル』創造の2学期」宣言をした9月でした。様々な行事や日々の生活がこれまでと違った形で、また新しい試みの中で進んできたこの1ヶ月を、どのように過ごされたでしょうか。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令等に合わせた生活スタイルをとらなければならなかったことから、なかなか思うに任せなかった部分もありましたが、『安心安全』を第一に考えながらも、職員一丸となって子供たちの『笑顔』『健やかな成長』のための活動に取り組んできました。今後もそれを活動の中心に据えていきます。クロムブックを活用した学習やこれまでの教育活動に対し、お礼や励ましのお言葉をいただきました。御家庭や育友会の御理解、御協力、本当にありがとうございます。

9月下旬になって、やっと緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され、教育活動レベルも3から1になりました。マスクや手洗いなどの感染防止策はとりますが、様々な活動を行うことができるようになりました。これまでに暫定的にストップしたり時期を変更したりしてきた教育活動もありますので、それらも進めなければなりません。多少はペースを上げて学習することも必要になります。『実り』の秋ですので、活動も気持ちも充実させて、より一層「にこわく」で進めていきます。

6年生の日常からの善さが十分に
いきた行事になりました。

～ 小学校生活最高の学びと思い出 修学旅行！ ～

9月27日（月）～28日（火）の1泊2日で、6年生が修学旅行を実施しました。今年度の修学旅行先については年度早々に長崎県内に限定されましたので、宿泊地や見学・体験地を何度も検討して下記のルートを決めました。6年生が行ってきた学習や姿の全部をお伝えすることはできませんが、少しでも様子をお伝えします。

修学旅行とは？

「修学」のための「旅行」ですから、「遊び」ではなく「学習」のために行う学校行事です。それでは、何を学ぶのでしょうか。当然ながら、現地に足を運んでこそできる学びをしなければなりません。今年度の旅程は県内21市町のうち、12もの市町を通っての見学や体験をしながら、幅広く歴史や文化を学ぶことができました。また、今年度は『ベストな行動をとり 思い出に残る 楽しい修学旅行にしよう』という学級全体の行動についてのめあても立てて旅行に臨みました。1泊2日で、多岐にわたって学ぶことができました。

旅程

島原方面、東彼・佐世保・西彼方面を回るという移動距離も学びも多い旅行でした。

＜1日目＞

女の都小学校 ⇒ 多比良駅 ～ （大三東駅5分停車） ～ 島原駅 ⇒
⇒ みずなし本陣（昼食） ⇒ がまだすドーム ⇒ 島原城 ⇒ ホテル（泊）

＜2日目＞

ホテル ⇒ くらわん館（波佐見焼絵付け） ⇒ 海遊（昼食） ⇒
⇒ 長崎バイオパーク ⇒ 女の都小学校

見学地での学び

○多比良駅 ～ （大三東駅5分停車） ～ 島原駅

「島原鉄道」の貸切車両に乗車しての鉄道の旅です。車窓から見える有明海は干満の差が日本一大きい海です。大三東駅は、屋根も柵もない開放的なホームから間近に海が広がり、「日本一海に近い駅」としても有名です。某清涼飲料水のCMで、女優の「上白石萌歌さん」が広めてくれた場所でもあります。島原駅では、鉄道に関することや島原の歴史について学ぶことができました。

○みずなし本陣

昼食をとり、お土産も購入しました。隣接する「土石流被災家屋保存公園」では、雲仙普賢岳噴火による土石流災害の爪跡を直に見ることができます。事前学習をしても、家屋がすっぽりと埋まっている様子などを実際に見ると、災害の凄まじさを肌で感じるすることができます。

○がまだすドーム

雲仙岳災害記念館です。「土石流被災家屋保存公園」では「土石流」に特化したものでしたが、ここでは、火山活動による島原半島の形成や溶岩や噴石など、火山活動全般について学ぶことができます。時速100km超で山を下ってくる火砕流を体感することができる装置など、見て、触って、体験して学ぶことができました。太古の昔から火山活動の『負』の部分と闘いながらも、湧水や温泉などの『恵み』も授かり、自然と共生してきた島原の人々の逞しさと賢さを知りました。

○島原城

見学が再開したばかりの城内です。お城の中はもちろん、最上階から見る島原の様子、昔の島原という城下町の様子など、現在の島原だけでなく、タイムスリップしたように昔の島原に思いをはせている子もいました。天草四郎に扮したスタッフなど、おもてなしの心遣いも嬉しかったです。

○くらわん館

波佐見焼の物産館です。陶芸の歴史も学びましたが、陶芸の絵付け体験をしました。図案は事前にしてきたものの、実際に素焼きに「呉須」を使って書いていく作業は真剣そのものでした。自分だけの芸術的な1枚を仕上げ、満足そうな表情の子供たちでした。仕上がった皿は、後日学校に届くことになっています。

○九十九島パールシーリゾート

「海遊」での昼食、「海きらら」での買物をしました。「海きらら」はイベント制限があったため買物だけの入館でしたが、大村湾周回の途中で佐世保まで足を延ばし、長崎県にいくつもある自然公園の一つ「西海国立公園 九十九島」の風景に触れることができました。

○長崎バイオパーク

世界各国の動植物の中にどっぷりと浸かって雰囲気を楽しめる場所です。身近にいる動植物から図鑑などでしか見ることがない動植物、珍しい昆虫に至るまで、観て触って楽しむことができました。

全般を通して

島原を代表する「そうめん」「かんざらし」「貝雑煮」、佐世保における「海軍カレー」など、各地の食文化やそれにまつわる歴史的エピソードも学ぶことができました。

長崎の良さは『地形』や『位置』、『歴史的価値』はもちろんのこと、そこに住み続けてきた、または移住してきた人々の『願い』や『思い』などに多様性があることです。過去と現在の様子を知り、それを熱心に学ぶ子供の姿に触れることで、子供たちが切り拓いていく未来の郷土の姿を想像することができました。旅行中にうまくいったこともいかなかったこともありましたが、今後の生活に生かしていったほしいものです。